

多摩地区国立大学5大学単位互換制度 東京外国語大学開講科目

「キャリアのための経営学1」について

授業題目： 日本の将来を左右する国際標準化（ルール作り）を学ぶ（経済産業省、産業界との連携による特別講座）
The International Standardization and the Future of Japan (Special Lecture)

■期間：2020年9月14日（月）から2020年9月18日（金） 毎日3時間目から（12:40～）5時間目まで（～17:30）計15回
集中講義形式：オンラインにより実施（Zoomを予定）

■対象年次：東京外国語大学・東京農工大学・電気通信大学の学部1年次以上
一橋大学・東京学芸大学の学部2年次以上

■この授業の目標

この共同授業は、国が主導する「標準化官民戦略会議」の後押しをうけて、東京外大、東京農工大、電通大からなる西東京三大学連携を基礎に、さらに一橋大学と東京学芸大が協力して実施される日本で初めての画期的な講義です。「標準化」とは、工業規格などの技術の普遍的な基準を確立することであり、技術の普及や発展の前提を整えることを意味します。それはしばしばたんなる「規格化」と混同されますが、「標準化」とはそれ自体が国際ルール作りの闘争であり、ダイナミックな交渉や調整のフィールドです。我が国では、この「標準化」への取組みが欧米や中国などに比べて弱かったために、技術開発の面での成功を、国際競争力での優位性に結び付けることに失敗してきたという苦い歴史をもっています。「標準化官民戦略会議」はこうした反省にのっとり、企業経営のトップに「標準化」が技術開発と並行した国際ルール作りの戦場であるという自覚を持たせるとともに、これから国際社会で活躍する若いエリート人材のなかにも、「標準化」についての理解とセンスを涵養しようと試みています。多摩地区の五つの大学はその問題提起に呼応し、経済産業省や産業界の支援を受けつつ、また文理協働の観点から東京外大のような文系の大学も交えて、今回の特別な集中講義を実現することになりました。

■授業概要

この授業を通じて、「標準化」（国際ルール作り）の定義、その歴史、さらに具体的な産業ごとにどのような課題が存在しているのかを学びます。経済産業省の課長として「標準化」問題の最前線を知る一橋大学の江藤学先生の基礎的な講義のあとで、機械、電機・電子、通信、バイオなど多様な産業の具体的な事例に即して、そのリアリティを知ることができます。こうした知識を持っていることは、これから就職活動を控えている学生、また現にその真っただ中にある学生にとって、即効性のある有効な武器になるはずです。

■参考

[図書] 江藤学編『標準化教本—世界をつなげる標準化の知識』日本規格協会、2016

※以下の日程（担当時限）、講師は変更になる可能性があります。

| No. | 分類 | タイトル | 内容 | 講師 | 担当大学 | 月日 | 時限 |
|-----|----|-------------|---|----------------|------|----------|---------------------------|
| 1 | 共通 | 標準化の基礎 | 標準化の概念・定義、目的、役割、分類、基本的な便益等について解説する。特に、身近なものについて標準が活用されていることを理解し、標準の持つ様々な側面と標準がビジネスに与える影響を考える。 | 江藤 学 (一橋大学) | 一橋大学 | 9月14日(月) | 3限 12:40 ～ 14:10 |
| 2 | 共通 | 製品基準とビジネス | 「標準」のうち最もわかりやすい製品標準を題材に、標準化や規制がビジネスにどのような影響を与えるのかを、様々な事例を見ながら検討する。標準化が基本的には「コストダウン」、「市場拡大」、「差別化」のツールであることを理解する。 | 江藤 学 (一橋大学) | 一橋大学 | 9月14日(月) | 4限 14:20 ～ 15:50 |
| 3 | 共通 | 試験方法標準 | 試験検査標準は、製品標準とは異なるビジネス効果を持つ面もあるが、製品標準と同じビジネス効果も持つ。試験検査標準を活用した製品の差別化事例を中心に、試験検査標準のビジネス活用について学ぶ。 | 江藤 学 (一橋大学) | 一橋大学 | 9月14日(月) | 5限 16:00 ～ 17:30 |
| 4 | 共通 | 認証ビジネス | 標準化と一体に運用される認証ビジネスについては、市場開拓、企業価値創造、ブランド化などの面でビジネス戦略に取り込まれている。ここでは、認証ビジネスの効果、利用方法、ビジネス上の対策などについて、基本的な考え方を整理する。 | 江藤 学 (一橋大学) | 一橋大学 | 9月15日(火) | 3限 12:40 ～ 14:10 |
| 5 | 共通 | イノベーションと標準化 | 標準化はイノベーションにも大きな影響を与える。数多く開発される技術シーズをイノベーションに繋げていく中で、知的財産と標準化をどのように使い分けていくべきかについて、様々な事例を見ながら考える。 | 江藤 学 (一橋大学) | 一橋大学 | 9月15日(火) | 4限 14:20 ～ 15:50 |

| | | | | | | | |
|----|------------|-----------------------------|--|---|--------|----------|---------------------------|
| 6 | 分野別：金融 | スタートアップエコシステムとルールメイキング戦略 | Fin Tech（金融とITを融合した取り組み）に代表されるように、日本国内でもスタートアップ企業によって新たなサービスや変革が様々な業界にもたらされるようになってきている。 市場規模が大きく、規制が厳しい金融・医療・不動産といった業界では、規制当局・既存の大手企業・スタートアップの3者による顧客保護を念頭に置いた連携促進が不可欠である。スタートアップ台頭によるビジネス変化の本質から、標準化までの動向を戦略コンサルタントであり、業界団体を兼務する立場から紹介する。 | 桜井 駿 （一般社団法人 Fintech協会 事務局 長） | 一橋大学 | 9月15日(火) | 5限 16:00 ～ 17:30 |
| 7 | 分野別：通信 | 通信の標準化 | 電気通信サービスにとって国際標準化は必須であり、ネットワークと端末、ネットワークとネットワークの間の接続プロトコル・インターフェースが標準化の基本的な対象となる。無線通信サービスの標準化ではさらに、使用する無線周波数の確保と有効利用という命題があり、新技術の導入を可能にする標準化が世界規模の枠組で継続してなされている。これらの仕組みと最新の動向について学ぶ。 | 奥村幸彦 （株式会社NTTドコモ 先進技術研究所） | 電気通信大学 | 9月16日(水) | 3限 12:40 ～ 14:10 |
| 8 | 分野別：電気・電子 | 電機・電子産業の標準化 | 電機電子産業における標準化の目的・意義について具体的な標準化活用事例を交えながら紹介する。最初に電機電子産業において最新の標準化動向や標準化を推進する目的と意義を説明。次に、具体的に戦略的標準化を実現するための商品・事業とそれに対するアプローチを解説。 その上で、具体的に標準化活動を事業戦略へ展開し市場拡大に適応した実事例を幾つか紹介。更に、現在進行中の最新の具体的な事例(家電/IoT等)を紹介し、標準化の位置付け・活用方法が変化し続けていることを説明。最後にこの様な状況下、どの様な課題があり、グローバルでどのように対応を解説する。 | 大隅慶明 （一般社団法人 日本 電気工業会） | 電気通信大学 | 9月16日(水) | 4限 14:20 ～ 15:50 |
| 9 | 分野別：バイオ・化学 | 国際市場を開拓する標準化戦略 | バイオ系、化学系の標準化には、製品性能規格や計測法の規格があり、これらに関する日本の技術は世界的にも高水準である。しかし、国際市場を開拓する上で必要不可欠な標準化戦略は、欧米諸国に比べ遅れを取っている。その中で、標準化活動をきちんと位置づけ、活動した事例を紹介し、自社の技術を標準化するには何が重要かについて検討する。 | 大野香代 （産業環境管理協会） | 東京農工大学 | 9月16日(水) | 5限 16:00 ～ 17:30 |
| 10 | 分野別：自動車 | 自動車電子制御システム開発における標準化戦国時代と課題 | これまで日本の自動車産業は「系列」や「モノ作りの力」で世界トップレベルの競争力を得てきたが、クルマは常時ネットに繋がり、自動運転が現実、エンジンから電気に、個人所有からシェアへと、自動車産業は100年に一度の大変革期を迎えた。今後は、限られた経営資源を機を逃さず競争領域に重点投資するために無益な競争を圧縮することが勝敗を決する。時代は正に「標準化戦国時代」、これまでの標準化活動事例における日本の得失を踏まえ、今後の課題を考察する。 | 谷川浩 （一般財団法人日本 自動車研究所ITS研究 部部長） | 東京農工大学 | 9月17日(木) | 3限 12:40 ～ 14:10 |

| | | | | | | | |
|----|---------------|---------------|--|---|---------|----------|---------------------------|
| 11 | 分野別：教育 | 標準化と教育 | <p>教育は、どのような国民を育てていくのかという、いわば国家の在り方や国民的な価値観に直結することから、単純な「標準化」の議論には馴染みにくい部分も多い。しかしながら、課題発見・解決能力や情報活用能力などのいわゆる21世紀型コンピテンシーについては、国家間・文化間での差異は意外と少なく、OECDが実施するPISAをはじめとした国際的なアセスメント指標も浸透しつつある。また、高等教育段階では、学位のチューニングや単位の相互互換システムの構築、工学分野などにおける国際的なア krediteーションの仕組みなど、「標準化」に親和的な動きが見られる。本講義では、教育をめぐるこうした複雑な状況を概観しながら、教育分野における標準化について考察する。</p> | <p>小宮山利恵子 (リクルートマーケティングパートナーズ・スタディサプリ教育AI研究所所長)</p> | 東京学芸大学 | 9月17日(木) | 4限 14:20 ～ 15:50 |
| 12 | 分野別：グローバルビジネス | 国際交渉の経験 | <p>国際交渉の現場からの視点で、「オモテ」における発表・議論・討論、とりまとめ、あるいは「ウラ」でのロビーイング、関係者との意思疎通のやり方等、スキルに重点をおいた国際交渉の現場について学ぶ。</p> | <p>泉泰雄 (オリエンタルコンサルタンツグローバル理事)</p> | 東京外国語大学 | 9月17日(木) | 5限 16:00 ～ 17:30 |
| 13 | 分野別：農業 | 農業分野の標準化と認証 | <p>農業において現在国際標準化が進んでいるのは、適正農業規範の分野である。工業分野の製品認証とは異なり、農業生産のプロセス認証によって、食品としての農産物の安全性、ひいては持続可能な農業を世界規模で推進することを目指している為、工業分野における、特定技術や製品の差別化とは様相を異にする。HACCP手法を基にした農産物加工の食品安全認証も同様の考え方だ。これら農業・食品分野に独特な動きを学ぶ。</p> | <p>今瀧博文 (一般社団法人GAP普及推進機構GLOBALG.A.P協議会)</p> | 東京農工大学 | 9月18日(金) | 3限 12:40 ～ 14:10 |
| 14 | 分野別：国際機関 | 国際機関、国際交渉、標準化 | <p>日本の経済外交の基本戦略とともに、その主要テーマや分野別施策のなかでも、とくに国際標準化(ルールづくり)に関わる問題のリアルを学ぶ。</p> | <p>宇山智哉(内閣官房TPP等政府対策本部内閣審議官)</p> | 東京外国語大学 | 9月18日(金) | 4限 14:20 ～ 15:50 |
| 15 | 共通 | まとめ | <p>最終回は15回の講義の全体を振り返り、あらためて標準化の重要性を確認する。</p> | <p>江藤 学 (一橋大学)</p> | 一橋大学 | 9月18日(金) | 5限 16:00 ～ 17:30 |